近畿自然歩道 45 クジラのまち太地（たいじ）を訪ねるみち

1 下里古墳（しもさとこふん）

古墳時代中期の全長40mの前方後円墳。本州最南端の古墳として国史跡に指定。墳丘周辺には周濠があったとされ、後円部には竪穴式石室が築かれている。

2 鳴子岩（なるこいし）

石で叩くと余韻のある独特の音が聞こえることからこの名がついたとされる。昔の人々が音色の違いにより、天気を占ったといわれている。

3 梶取崎灯台（かんどりざきとうだい）

梶取崎の名称は、熊野灘を航行する船舶がこの岬を目標にして梶を取ることに由来する。灯台の頂点では、風見鶏ならぬ風見鯨が人々に風向きを知らせている。

4 吉備真備漂着之地（きびのまきびひょうちゃくのち）

記念碑のある燈明崎は、遣唐使であった吉備真備が唐からの帰途に暴風に遭い漂着した地とされる。以後その一族がこの地に残り太地の町を拓いたといわれる。

5 山見番所（やまみばんしょ）

太地古式捕鯨で勢子船などに指令を与える指揮所。太地浦にはかつて5ヶ所の番所が置かれていたという。現在のものは古式捕鯨絵図を参考に復元されている。

6 古式捕鯨狼煙場跡（こしきほげいのろしばあと）

鯨を発見した際、待機している勢子船に鯨の見えた方向を知らせる狼煙をあげた場所。この辺りにはかつて3ヶ所の狼煙場があった。

7 燈明台（とうめいだい）

江戸時代の初めに設置された、鯨油を利用した灯台。明治5年に廃止され、現在のものは後に絵図を参考に再建されたものである。

8 漂流人記念碑（ひょうりゅうじんきねんひ）

明治11年12月に発生した大背美流れ（おおせみながれ）と言われる捕鯨遭難事故の犠牲者追悼のために建てられた。100余名の犠牲者が出る大惨事であった。

9 岩門（せきもん）

太地古式捕鯨の創始者和田氏にちなみ「和田の岩門」とも呼ばれている、風化作用によってできた天然洞穴。和田氏はこの内側に約5千坪の屋敷を構えていた。

10 飛鳥神社（あすかじんじゃ）

平清盛の孫、平維盛（たいらのこれもり）が那智勝浦町の沖の山成島に渡る際に落としたとされる太刀が奉納され宝物として保管されている。

11 鯨骨の鳥居（げいこつ）

漁の守り神である事代主命を祀る恵比寿神社の鳥居。マッコウクジラの顎骨でできた鳥居が目を引く。当地域の鯨に対する敬意や造詣の深さがうかがえる。

12 くじらの博物館

世界最大級の鯨の博物館。館内には、体長15mのセミクジラの模型が吊され、鯨の生態や捕鯨に関する資料など1000点余りが展示されている。

凡例

- トイレ
- 公衆電話
- 水場
- 駐車場
- 休憩所
- バス停
- 売店
- 駅

0 1km

交通情報

▼起点：JR下里駅
（那智勝浦町下里）
・運行頻度：1日10本以下
・JR西日本
TEL：0570-00-2485

▼終点：くじら館バス停
（太地町太地）
・運行頻度：1日10本以下
・太地町町営じゅんかんバス
TEL：0735-59-2335

注意事項

▼自然は私たちの貴重な財産です。木・草花・動物・岩石等の採取はせず、後世に残せるよう自然を大切にしましょう。

▼近畿自然歩道は地域の方の御協力により指定させて頂いているルートです。私有地へ立ち入る際は当該地で定められているルールに注意しましょう。

▼ゴミ・あき缶・ビン・ペットボトル類は必ず自分で持ち帰りましょう。

▼沿道の住人をはじめ他人の迷惑になるような行動は慎みましょう。

▼山岳地のコースなどでは、特に台風・大雨等の後は、落石・倒木・土砂崩れ等の恐れがあるため、十分注意してご利用下さい。

▼車道との兼用道もありますので、自動車等に注意してください。

▼交通の不便なところや足下の悪いところもあります。あらかじめ調べておきましょう。

行程図

和歌山県
Wakayama Prefecture
環境生活総務課 自然環境室
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2779
FAX：073-433-3590
メール：e0320004@pref.wakayama.lg.jp

印刷：株式会社 阪和写真製版社 〒646-0216 田辺市下三栖1499-61 ☎0739-81-1555

このWebサイトで掲載している地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである（承認番号 平22近複、第68号）。